

# 駐日英国大使が特別講義

## ブリティッシュ・ヒルズ 高校生、英語学ぶ



ウォレン大使の講義に真剣な表情で聞き入る高校生

県内の高校生に二泊二日の日程で生きた英語を学んでもらう復興応援プログラムが十

九、二十の両日、天栄村のリゾート&語学研修施設ブリティッシュ・ヒルズで開かれている。初日はディビッド・ウォレン駐日英国大

使が特別講義で高校生を激励した。

福島民報社と同施設の主権。同施設や運営母体の学校法人佐野学園(佐野元泰理事長、本部・東京都)グループ

プの神田外語大から英国人講師をそろえて二日間、基本的に「英語漬け」の時間を過ごす。約百五十人の申し込みがあり、抽選で八十人が参加した。

### ウォレン駐日英国大使に聞く

ウォレン大使は特別講義に先立ち、福島民報社のインタビュアーに「射性物質に苦しむ県民に、東日本大震災後にメッセージを送っ

ウォレン大使は日本語で講義し、英国の歴史と、地方分権が進んで経済面でも大きな変革を遂げている現状を伝えた。さらに「日本は親しい友人。

将来に向けて友好関係を築くことが重要」と高校生に期待を掛けた。佐野理事長は今回の企画を今後も継続する考えを明らかにした。

## 福島への復興へ支援継続



関係者から友好の必要性を説くウォレン大使の発言

「支援の気持ちを伝えるたかった」被災地を訪ねたことは。震災後、宮城、岩手を手を合わせて三度訪れた。最初は英国人の消

息を確認するためだったが、日本人の困難に耐える勇氣、力強さは大変印象的だった。機会があれば事故のあった原発周辺の被災地も訪れたい」県民に一言を。「英国首相は震災直後、駐英日本大使館を訪れ、日本は必ず復興できると励ました。わが大使館は福島県、日本の復興へ支援を続けることを約束する」